

建築士

おおた

秋季号

2022 NO 129



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

01 新役員挨拶	会 長 幸 勝美 副 会 長 高野 幸雄
03 公益事業の成果	大 分 支 部 野口 浩平 防 災 委 員 会 後藤 憲二
07 全国青年委員長会議に参加して	青 年 委 員 長 後藤 好信
08 建築士の集い「長崎大会」に参加して	大 分 支 部 小関 公香 佐 賀 関 支 部 片岡 賢吾
11 日田に流行した麻疹	廣 瀬 資 料 館 園田 大
12 インフォメーション（支部便り）	日 田 支 部 鬼武 雅之 豊 後 大 野 支 部 工藤 健治 臼 杵 支 部 合澤 浩司 佐 伯 支 部 志賀 智昭
16 新支部長挨拶	高 田 支 部 為成 裕二 別 府 支 部 籠田真一郎 佐 賀 関 支 部 佐々木 浩 臼 杵 支 部 合澤 浩司 中 津 支 部 山村 増治
18 我が街の建築士紹介 県央	大 分 支 部 工藤 賢也 大 分 支 部 蓑手 望 別 府 支 部 幸 裕子 別 府 支 部 重田 凌汰
20 マイワーク 県南	佐 伯 支 部 北口 芳康 豊 後 大 野 支 部 高野 幸雄 臼 杵 支 部 足立 洋平
22 マイベストブック 県北	玖 珠 支 部 瀧石 雅一 日 田 支 部 櫻木弘三郎 中 津 支 部 日高 雄介 宇 佐 支 部 奥田 和彦
24 マーボアの旅先日記	顧 問 井上 正文
27 事務局だより	大 分 県 建 築 士 会 事 務 局



■ 表紙説明 ■

表紙のイラスト

アートプラザ

設計：別府支部 新山 俊則



新役員挨拶



大分県建築士会 会長

幸 勝 美



井上前会長の後を引き継ぎ、本年6月の理事会で会長に選任されました幸と申します。どうぞ宜しくお願い致します。ご存じの方もいらっしゃると思いますがまずは自己紹介を致します。1954年11月生（昭和29年）の67才別府生まれの別府育ちです。大分県立別府鶴見丘高校から福岡大学工学部建築学科へ進み、卒業後は長崎の建設会社に勤務1980年（昭和55年）に帰別し現在に至っています。

私の大分県建築士会との出会いは昭和55年に別府建築士事務所会館の建設工事を担当した時に、設計をされたのが当時建築士会別府支部の青年部長をされていた工藤建築設計事務所所長の故工藤英治さんでした。その出会いがきっかけで入会することになりました。別府に戻って間もない私にとっては知り合いも少なく、建築の仕事に携わる方と知り合いになり建築の事を学びたいと思っていましたので喜んで入会しました。その後は支部の研修旅行や総会後の懇親会等で設計事務所や行政又教育関係や建設業に携わっている方々と知り合いになり多くの友人知人を得ることが出来ました。昭和60年に別府支部の青年部長になり大分県下各支部の方々と知り合いになり私にとって大きな財産となりました。

建築士会のメリットの一つは、建築に関わる多種多様な方々と知り合えることだと思っています。年齢や職域、立場の異なる方々と共に活動し自己研鑽と社会貢献が出来るだけで無く、時には自分の悩みを相談できる素晴らしいグループだと思っています。

さて、新型コロナウイルス感染拡大の中、人との接触を控える事が要求され多くの会合や事業が中止となりました。建築士会事業も「全国大会広島大会」が延期変更となり「建築士の集い大分大会」も中止を余儀なくされました。そのような中、私達は新しい生活習慣を身につけ、新しい働き方を模索しながらコロナウィルと共存していかなければなりません。各支部の事業や本部事業においても知恵を出し合い創意工夫をし、楽しみながら実施して参りましょう。私達会員が一丸となり、困難を乗り越え事業を行うことで地域社会に貢献し大分県建築士会の存在をPRすることが出来れば、最高の喜びとなるでしょう。

大分県建築士会も1951年8月（昭和26年）創設以来71年がたちました。その間多くの先輩や会員皆様方の努力のお陰で二度の建築士会全国大会の実施や多くの地域貢献が行われてきました。この歴史を次の世代の人たちのために繋げて参りましょう。

会員減少が続く中、会員増強は重要な課題です。創意工夫し、楽しみながら事業を行うことで1人でも多くの仲間を増やして行きたいと思っております。今後とも、会員皆様方からのご支援、ご協力をお願い致します。

新役員挨拶



大分県建築士会 副会長

高野 幸雄



令和4年度より、大分県建築士会の副会長に就任致しました、豊後大野支部属で県南ブロック長を兼務いたします高野幸雄と申します。

昭和59年大分市内の建設会社を退社して、ふるさとの豊後大野市三重町に帰り設計事務所を開設し、大分県建築士会三重支部に入会しました。

当時は三重土木事務所内に建築士会事務職の佐用美代子さん（令和3年死去）の席もあり、確認申請業務のサポート・許可看板の作成など親切丁寧に面倒を見ていただき、親睦ソフトボールや研修旅行など事務職員（佐用さん・伊美さん）のお陰で、建築士会三重支部会員の親睦を長い間支えていただきました。

三重支部、委託業務として「豊後大野の家」基本設計・市内全域の空家調査なども体験し、今後も公益法人として団体での取り組みによる必要性を認識しました。

令和元年、建築士会全国大会（北海道大会）に参加、函館アリーナを中心に記念講演・各セッション・地域交流見学会など札幌・小樽まで足を延ばし素晴らしい体験を致しました。仕事を休んで各大会への参加はなかなか困難な状況ですが、建設業界も働き方改革を進めて各大会への参加研修が必要です。

「建築士への道」過去を振り返ると、中学時代に建設業を職業としての目標に持ち大分工業高校建築科、建設会社から設計事務所と自分の好きな業種を職業に選び建築士試験にも合格して、建築施工～設計と専門的な知識を諸先輩方よりご指導いただき、木造・鉄骨造・RC造と住宅から公共施設まで多くの方々と出会い・協力し建築物・施設の建築設計業務を担当させて頂きました。地震や災害の多い国で建築物や施設の設計・施工を担当する事は、専門家としての責任感と期待に応える使命感がこれからも必要不可欠だと考えます。

建築士が互いに協力研鑽し安心・安全なまちづくりを考え作る為にも、建築士会の役割は大きく、社会の期待に応えていけたらと考えます。

今年度から副会長を仰せつかり、微力ではありますが、幸会長を県南ブロックの皆様と色々な出合いを大切に支えていきたいと思っております。皆様、ご指導のほどよろしく願います。

令和3年度全国青年委員長会議に参加して

青年委員長 後藤 好信

2022年3月12日、全国から建築士、講師陣が集まり、「未来に漕ぎ出せ！～新時代の冒険者たち～」というテーマで全国青年委員長会議が開催されました。

今回は、コロナ禍で更にまん延防止措置の延長に伴い、2日間の開催予定が1日に短縮。参加方法も現地参加（東京ビックサイト704会議室）とZOOMを使ったWEB参加という変則的な開催でした。大分県からはWEB参加で後藤、現地参加で前青年委員長光井智氏の二名で参加しました。



会議第一部では、コーディネーターを藤村龍至氏、ゲスト講師アリソン理恵氏、今佐和子氏、嶋田洋平氏、山田紗子氏の計5名による発表と、トークセッションが行われました。建築士という軸の中でも様々なバックボーンを持ち多角的な事業を行っている講師陣の話は参加者の共感を得るだけでなくこれからの建築士のあり方に対して多くのヒントがありました。

第二部では、現地参加者とWEB参加者でそれぞれのグループに分かれ講師が時間ごとに変わるグループセッションは、講師陣と直接話をする事ができる貴重な時間でした。私たちのグループでは地方の建築士不足が議題に上がると、講師の嶋田氏からは、地方での建築士不足、建築士の高齢化問題は都会で仕事をしている若手建築士にとってはチャンス。地方にも目を向け仕事をするべきではといった議論が交わされました。

第三部では「困難な時代、生き残っていくためのアクションプラン」をテーマにワークショップ形式で、個人やブロック単位で何をやっていくか

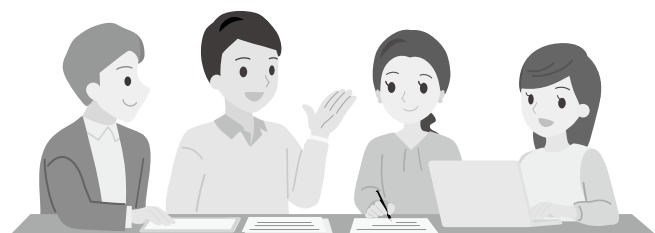
そのために建築士会のネットワークをどのように活用していくかを考える時間となりました。このワークショップを通して九州ブロックでは早速LINEを使って「九州ブロックコミュニティー」という何でも気軽に相談できるオープンチャットが開設されました。

通常であれば2日間の開催だったものを一日にギュッと詰め込んだため13時に始まった会議、終わったのは19時を過ぎていました。



長引くコロナ禍、まん延防止措置の延長という開催が困難な時期ではありましたが、知恵を絞りハイブリッド開催で全国の建築士の方と交流ができた有意義な時間を過ごすことができました。これからの時代、どのように生き残っていくか、前向きに力を合わせて新しい時代にも対応できる組織作り、建築士になっていかないといけないと気付くことができた会議でした。

一刻も早くコロナが終息し、また対面で多くの建築士の方と交流できる日が来ることを願っています。



令和4年度 公益事業の成果

大分支部

大分支部 青年部 造形班 野口浩平 —おりがみ建築ワークショップ・磯崎建築を学ぶ講座—

令和4年5月21日(土)、アートプラザにて、おりがみ建築ワークショップと、磯崎建築を学ぶ講座を開催しました。

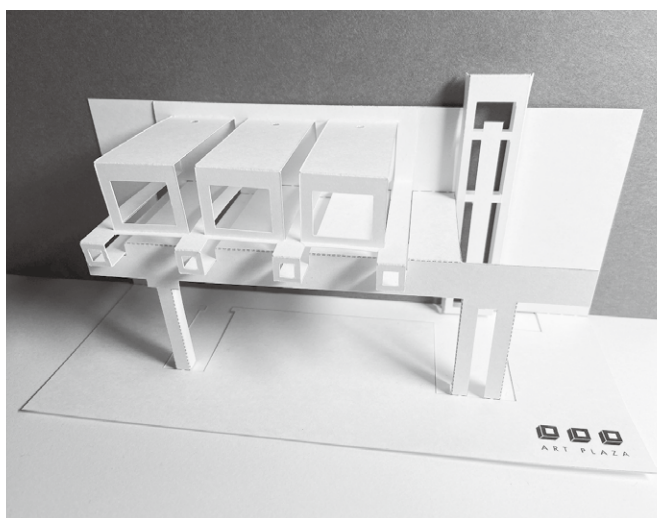
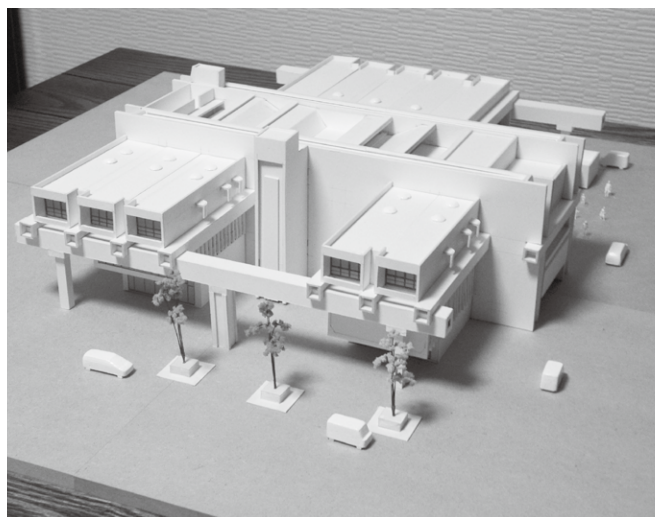
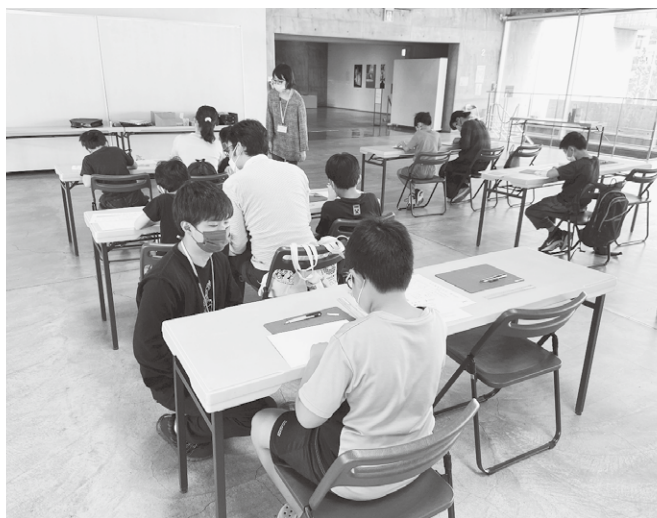
午前中の「おりがみ建築ワークショップ」では、『アートプラザをつくってみよう』と題し、最新作アートプラザのおりがみ建築を制作してもらいました。小学生を対象に募集を行い、参加者は14名でした。

アートプラザの他にも、『岩田学園、由布院駅、大分県立図書館、旧大分県医師会館』のおりがみ建築を用意し、参加者の皆さんには、磯崎新氏の建築に触れてもらうことを意識しました。

また、昨年度制作し寄贈した、アートプラザ組立て模型にも挑戦してもらい、アートプラザをプラモ

デル感覚でつくってみようという企画も行いました。

開催後のアンケートでは、「親子で楽しい時間を過ごすことができた」、「完成した後すぐに実物を見られたので、子ども達が何を作ったのか実感できてよかった」、「模型を自由に触らせてもらえてうれしかった」、「などの意見があり、楽しんでもらえて良かったです。



おりがみ建築教室は、公益事業で毎年開催していますが、今回アートプラザさんと連携したことで、特に建築に興味のある子供達が集まってくれたように感じました。実際の建物の中で、おりがみ建築をつくれるというのは最高の建築体験だと思います。今後もこのような機会を増やしていきたいです。

午後に開催した「磯崎建築を学ぶ講座」では、座学による磯崎新氏の紹介、アートプラザの建物概要、用途変更前の大分県立大分図書館当時の解説を行っ

た後、館内の見学ツアーを行いました。高校生以上を対象に募集を行い、参加者は24名でした。アートプラザに興味のある一般の方の他、工業高校、普通高校の生徒さんの参加も多く見られました。

開催後のアンケートでは、「磯崎さんのことをあまり知らなかったの、詳しく知ることができて



良かった」、「先生の話で少し聞いたことがあったけど、実際に詳しい話を聞くのは初めてだった」、「新旧の比較があり、非常に分かりやすく楽しく学ぶことができた」、「何度も足を運んでいるが、新たに分かったことがあって楽しかった」などの意見がありました。

初めてアートプラザに来たという高校生も多かったの、良い機会になったと思います。また、アートプラザを訪れた経験がある方にも、新たな発見があったようで良かったです。特に高校生は、磯崎新氏の活躍はあまり知らないでしょうし、アートプラザが以前図書館だったことは想像がつかないと思います。この建物がなぜつくられたか、当時はどんな使われ方だったのかを知ることで、建築の見方も変わると思います。今回の講座を通して、アートプラザの持つ建築の魅力を一人でも多くの方に伝えられたなら、幸いです。

今回のアートプラザ連携事業は、アートプラザ事務局からの依頼があり実現した、初めての試みでした。普段の公益事業とは違った、建築に詳しい参加者にも出会うことができました。今後も継続して、連携イベントを開催していきたいと思います。

令和4年7月22日、アートプラザが国の登録有形文化財に指定されることになった、という報道が発表されました。後世に残したい建築として、再びつくることのできない貴重な文化財として、地域の資産として生かせるよう、協力していきたいと思います。



防災委員会 後藤 憲二 令和4年度被災建築物応急危険度判定実施研修会

今年度は、被災建築物応急危険度判定実施研修会を中津市今津地区の今津コミュニティセンターにおいて8月27日(土)に21名参加で開催しました。



今回の研修会は、実施判定地と講習会場が近接していることともあり、応急危険度判定実施研修に加え、判定に至る原因の地震についても高知工科大学総合研究所インフラサウンド研究室中津データセンター長の金子光広氏を講師に迎え、「巨大地震に立ち向かう～大分県の地震津波防災のための基礎知識と最新動向」の講演を企画しました。



講演の中では、地震の基礎知識の中で地震の威力を広島型原爆の何個分に当たるなど今までに想像しなかった視点での説明があった。

日本は分かっているだけで1000ヶ所の活断層が

あり未発見の活断層を含めると相当な数に上ると思われる。活断層型地震であった熊本地震と関連して、その前後に西日本の中央構造線にまつわる一連の地震の流れなどを説明して頂き、熊本地震はその約半年前に起こった薩摩半島西方沖地震と大きく関わっていたこと、それと同様な事象が戦国時代にも起こっていたことは非常に興味深い内容でした。

中津での開催ということで、周防灘で判明している周防灘断層帯の延長線上である中津市にあるであろう隠れ活断層から県北の地震や南海トラフ地震の際に想定される周防灘内で往復して複数回起こる津波についてなどは県北に住む自分にとっては今後十分に意識しておかなければならない内容でした。



応急危険度判定の実習は、応急危険度判定基準や判定マニュアルについて熊本地震の際の活動内容の体験談なども含めて約1時間の座学の後、旧中津市宮若旗山住宅を使用させて頂き実施しました。解体が近いということもあり、中津市のご厚意で住宅を地震後の被害想定を模して被害状況を再現させて頂き、判定には適した状態で実施できました。





初めて応急危険度判定を経験する参加者は当初一連の判定活動を戸惑いながら進めていましたが、徐々に手際が良くなっていきました。

今回は、判定後のパソコンでの調査結果入力作業を行い、登録→判定→結果入力と一連の流れを体験して貰いました。

応急危険度判定は、大きな地震発生後に活動が行われます。地震列島の日本ですが、大分県在住の建築士が判定に参加したのは6年前の熊本地震が直近です。頻繁に実際の判定活動に携われるものではありません。今回の研修に参加されていた方の中には熊本地震の判定活動に参加された方もいましたが、「やはり時間が経つと判定活動の内容で忘れかけていることが出てくるね。」との話がありました。

いざ判定活動を行う際に滞りなく判定活動を行うためには今回のような判定実施研修会による判定活動の経験があることが大きな助けになると思います。

今後も定期的に応急危険度判定の実践的な訓練研修会を県内各地で開催していきたいと考えています。被災建築物応急危険度判定士登録をされている方々はぜひご参加ください。（登録前の方も大歓迎です。）

今年度の研修を開催するにあたり、判定する建築物をご提供頂いた中津市、研修会開催を共催していただいた大分県建築物総合防災推進協議会に感謝申し上げます。

防災委員会では今年度、『罹災証明に必要な住家の被害認定調査に係る技術者養成研修会』を11月頃に竹田市で開催を予定しています。近年、ゲリラ雷雨、線状降水帯、台風などにより被害の発生が多くあります。事前に事務局から各支部に案内を行いますので参加してください。



建築士の集い「長崎大会」に参加レポート

大分支部 小 関 公 香

3年前から大分県建築士会に入会しました小関公香と申します。6月25日(土)長崎で開催されました建築士会九州ブロック研修集会「建築士の集い長崎大会」～長崎今昔物語～に参加してきました。会場の長崎市は今年秋に西九州新幹線の開業も予定しており100年に1度の長崎駅周辺大規模改造中で、会場の出島メッセは昨年11月に長崎駅の前にオープンした交流拠点施設です。

午前中は九州ブロック協議会が行われ、来年の佐賀大会、再来年の宮崎大会の準備が着々と行われる中、各県から意見を出し合いながら進めています。また新たな情報発信ツールとしてインスタグラムを取り入れることが提案されました。コロナ禍の近年リモートも併用して行われていましたが、今回は全員対面参加で開催され、初めてお会いする方もいてより話がしやすい会議でした。



午後から研究集会が始まります。コロナの影響で一昨年の鹿児島大会は延期になり後日Web開催、昨年の大分に関しては、1年以上前から実行委員会で企画されたにも関わらず中止になり、現地開催は2年ぶりで初めての集い参加になりました。九州各県から約400名の建築士が集まる中、開会式の各挨拶の後、7つの各県から地域実践活動の発表がありました。大分県からは大分支部の「しきどプロジェクト」に関する発表があり、8年前からの取り組みの成果・報告が行われ、惜しくも結果は3位でしたが自分自身もプロジェクトに参加する中で、今後の更なる活動拡大が期待されます。他県の発表の地域性・

歴史・課題解決に取り組む建築士の活動を聞き、一建築士が取り組むことができる幅の広さを感じました。



その後4つの分科会に分かれていましたが、今回は第1分科会の「長崎の未来みせませ。出島復元整備事業について」というタイトルで長崎市文化観光部出島復元整備室 専門官の山口美由紀氏の講演をお聞きしました。どこかでお見かけしていると思っておりましたが、昨年の「建築士」8月号の「この人に聞く」に特集されていた方です。出島については小学校の歴史の授業では習っていたと思いますが、一度用途を失い敷地ラインがなくなり、一から今の扇形まで復元されたという認識はありませんでした。昨年末、集いの視察見学を兼ねた九ブロ会議の長崎開催で知り、これまでの経緯に興味を持ちました。



この復元整備事業の始まりは、オランダからの話の持ち掛けから始まり、1951(昭和26)年から最初の約50年という歳月で用地買収をして発掘調査が始まり、1996年より復元整備事業がスタートして現在に至ったそうで、約150億円(用地買収に約100億円)の事業費の中でここまでの実現に至った経緯について写真を交えてわかりやすく説明していただきました。

寛永13(1636)年に築造され大正11(1922)年に出島和蘭商館として国の史跡に指定されているので、今年で指定100年になるそうですが、出島の復元は19世紀前半にすることで、現存する内部の明治期の建物は今後の移築も考え文化財にはしないそうです。

復元に当たっては、当時の技術が用いられるものの第1期事業(2000年完成)の工事は一からのスタートで日本国内で文化財の修理従事者からの指導の元、地元の職人を育てたそうです。その後は、5~7年スパンで復元工事が行われるため、現在は地元で技術の伝承が行われ、工事を賄っているそうです。しかし、職人の高齢化が進み、復元工事の今後の継続性もあり、人材確保が難しい課題もあるとお聞きしました。

去年は官民上げて地区住民の理解と協力での文化・まちづくり事業の偉大な成果として都市景観大賞 都市空間部門での大賞を受賞されました。今後敷地内に一部かかる国道の移設により、敷地全体が扇形で海に囲まれた復元を含む壮大な長期計画もあるそうです。次の日に実際見学してみますと復元工事とはいえ、自動ドア、スロープなど現代に併せたバリアフリーを取り入れて多くの観光客にとって優しい復元になっていました。展示品には発掘された生活用品などの遺物を始め、建築材料、カピタン部屋などに於いては同時代の品をオランダから買い付

けてきたという調度品の展示は本格的で、その他工事過程も見学できるように分かりやすく配慮されていました。現在唯一の出入口「出島表門橋」は地元長崎の造船技術を取り入れた最新の構造技術を用いて、片持ち梁で出島側には負荷がかからない橋が採用されており、新旧融合され違和感なく調和していました。

集い長崎大会の運営では、質疑応答はLINEを取り入れるなど工夫されており、実行委員を始め長崎県建築士会の皆様には大変お世話になりました。

交流会では九州各地から300名近く集まりこの機会になかなか会えない他県の方ともお話できて、逆に大分県内の方には会えない人もいるほどの人の多さに圧倒されながらも沢山の参加者と交流することができました。合間に変面ショーその他出し物も多く準備され、奥に稲佐山のライトアップを見ながら水辺の会場で長崎の夜を楽しむことができました。

開港5都市の一つとして、歴史・文化が今も多く根付き残る長崎で学んだことを頭の片隅に置き、大分でも一つ一つの足元の光を見つけて磨いていくことで歴史や文化も感じるまちづくりにつながると感じながら帰路につきました。

来年は令和5年6月24日(土)で今年の地域実践活動で1位の取り組みされている佐賀県鹿島市に隣接する嬉野市で開催予定ですので、この機会に佐賀の歴史文化のまちづくりを見学してみたいかたがでしょう。



建築士の集い「長崎大会」に参加して

佐賀県支部 片岡賢吾

一昨年の鹿児島大会、昨年の大分大会とコロナの影響により開催できなかったこともあり、3年ぶりの開催となる「建築士の集い」に参加してきた。今回は長崎大会ということで、出島メッセ長崎をメイン会場とし開催された。梅雨真ただ中であつたため天気はすぐれないものの、ほとんど傘を使うことがなかったことは幸いであつた。

大会は定刻に開会され、開会式に次いで各県の「地域実践活動発表」が行われた。各地域の特性や課題に対しての様々な取り組みが発表された。

その中でも歴史的価値の高い街並みを保存・伝承し地域の活性化に活用することで、まちづくりとしての高い実績がみられた佐賀県の活動発表が九州代表に選出され、全国大会で発表することとなった。

次いで2位の熊本県は、役目を終えた仮設住宅団地の集会所の移転活用による再利用の取り組みについての発表であつた。災害の多いこの国において、このような活動例は貴重なものだと感じた。惜しくも大分県は3位と九州代表には選ばれなかったが、各県の建築物等を中心として地域住民などを巻き込んだ地域活性・まちづくりへの取り組みは、どれも魅力的なものだった。



その後各分科会に分かれ、講演やまち歩きの中で長崎の歴史に触れた。港周辺には随所に長崎の発展を支えた歴史の跡が見受けられた。また著名な建築家によって設計された建築物が少し歩けば、いくつも見られるのは長崎特有の地形ならではの魅力ではないだろうか。



夜には長崎出島ワープにて意見交換会が予定されていたが、都合により参加できなかったのはとても残念だ。コロナ禍により、こういった交流の場は大変貴重となっていると思う。次回こそ是非参加し、他県の方との交流を深めたい。

今回は短い期間での滞在だった為、あまり多くは巡ることはできなかったが、次の機会には教会など長崎特有の文化遺産も巡ってみたいと思う。

「麻疹」と廣瀬淡窓～『淡窓日記』から～

公益財団法人廣瀬資料館 園田 大

250年続いた江戸時代は平和と共に、様々な病気が流行し、苦勞しました。今回は「麻疹」を紹介します。

■登場人物

廣瀬淡窓

(たんそう・1782～1856)



廣瀬秋子

(ときこ・1784～1805)

淡窓の妹

1・江戸時代の諺と流行

麻疹は何時発見されたかは不明ですが、次の諺が流布しました。

「疱瘡は見定め、麻疹は命定め」

江戸時代では「麻疹」は落命し、後遺症が遺る危険な病気なのでしょう。

江戸時代に流行したのは13回で、次に掲げる年表です。

- 1・慶長一二年（一六〇七年）
- 2・元和二年（一六一六年）六月
- 3・慶安二年（一六四九年）三月
- 4・寛文一〇年（一六七〇年）二月
- 5・元禄三年（一六九〇年）三月～翌年
- 6・宝永五年（一七〇八年）秋～翌年
- 7・享保一五年（一七三〇年）九月
- 8・宝暦三年（一七五三年）四月～九月
- 9・安永五年（一七七六年）三月末～初秋
- 10・享和三年（一八〇三年）三月下旬～六月
- 11・文政六年（一八二三年）十一月～翌年三月
- 12・天保七年（一八三六年）七月
- 13・文久二年（一八六二年）六月～閏八月

私達がこの年表を観ると、「麻疹」が10数年から30数年毎に流行しているのがわかります。

そこで、「淡窓日記」から10回目の享和三年・11回目の文政六年・12回目の天保七年に流行した「麻疹」を観ましょう。

2・享和三年の「麻疹」淡窓22歳

淡窓の日記から、享和三年は下記の記録です。

●麻疹は日本中に流行・猛烈し、二三歳以下は悉く感染しました。私も五月より六月までは病でした。

日記からは、麻疹が流行し、日本中がこの病に苦悩し、特に23歳以下の若い人達が感染したことがわかります。日記の末尾には後述する文政七年以来の大病とあります。

余談ですが、この年に秋子（一七八四～一八〇五）は、毎日永興寺に行き、麻疹退散のため、祈祷を受けます。

3・文政六年の「麻疹」淡窓43歳

淡窓の日記から、内容が享和三年と近いです。

●一〇月一〇日より二月に至る迄に塾生二三人が麻疹に掛りました。二二・二三年に一回は日本中に流行しますが、前回と比べれば軽いものです。

今度は文政六年の「麻疹」が翌年一月に日田にも拡がりました。淡窓はこの病を22、3年に一回は流行すると記しています。

日田の人達は洪水と同様に流行病にも苦勞しました。

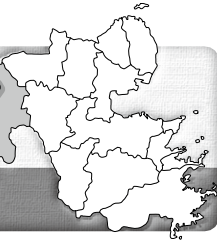
4・天保七年の「麻疹」淡窓55歳

淡窓日記は前の文政七年と同様と記しています。塾生も70～80人から30～40人へ減少し、（28人は風疹のため）咸宜園でも30人以下は14～15年ぶりです。入学者が少ないのは他人が噂を流しています。

今度は淡窓は「麻疹」で塾生の減少だけでなく、噂で入門者がいない、と悩んでいます。又、今年の秋は凶作の影響もあると、記しています。

ここで重要なのは、人の噂で入門者が減少した事で、淡窓や咸宜園も苦勞しました。

今回、私達は「コロナ」に直面していますが、江戸時代も同様でした。淡窓は病に、咸宜園も噂で門下生の確保に苦勞しました。



「建築士の日(よろず建築相談会)」 の活動について

日田支部 鬼 武 雅 之

1950年(昭和25年)の7月1日、この日は「建築士法」が施行されたことを記念し、1987年(昭和62年)に日本建築士連合会が、地域社会の健全な発展と安全で快適な暮らしを提供するために欠かせない建築士の質と地位を向上させること、建築士の社会的な意義を広くPRすることを目的として「建築士の日」と制定しました。

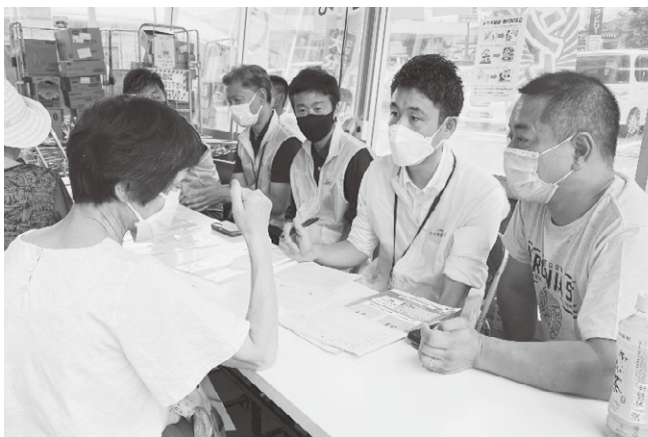
◇6月26日(日)、日田市民生協新治店で、住宅の耐震化、新築・リフォーム、空き家問題など住宅に関して建築士が相談を受ける「住宅相談会」が3年ぶりに行われました。

今年は、「建築士の日記念事業」ということもあり、県下一斉に行われ、当日は3名の相談者が来られました。

例年、市役所の1階ロビーで行っていますが、会場を日田市民生協さんでの開催となり、いつもと違う新鮮な気持ちでいました。

また、相談窓口は、屋根はあるものの屋外で当日の気温は30℃を超え、蒸し暑い日田らしい夏を感じつつ、いい汗かきました。

準備を大方済ませて席に着き、買い物目的のお客さんが店内に出入りのために自動ドアが開閉する度に涼しい風を感じながら、先輩建築士の方々と資料



の内容確認を行っている、相談者が1人見え、さらに2人、3人と続き、一人ひとりのお話を聴きながら、何が問題なのか、何を困っているのか、どうしたいと考えておられるのかとか、言葉を交わしながら相談内容の解決点を探していきます。

相談内容の回答については、あくまで客観的な視点でアドバイスを行うことがポイントという事で、それを意識して見解を述べることは結構難しかったものの、相談者にとっては何かキッカケができたようで、相談して良かったとの感想をいただきました。

相談を受ける側としては、とても良い経験となったことと、来年に向けての課題も認識できました。

住宅について耐震や省エネ・断熱さらには、将来は空き家などといった様々なコンテンツがあると思います。建築士の幅広い活躍が求められている時代であると感じました。

また、次の記録を建築士として再認識したいと思います。



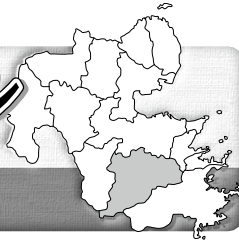
○備忘録～昭和62年10月2日制定(第30回建築士会全国大会における大会決議参照)

今や建築士を取りまく諸問題は、その高度な技術の研究をはじめ、めまぐるしく移行する諸情勢と相まって、複雑かつ重要な時期に直面していると言える。

建築士のための指定講習会をはじめとする種々の施策、建築士の質の向上と建築物の高度化への適切な処置はあるが、広く社会に向かっての建築士の地位の向上については、未だ何の策もとられていないのが現状であろう。

われわれは、いま社会に向かって、地道な努力をして訴えていかねばならぬ多くのものを感じざるを得ない。

ここに、全国的に「建築士の日」(7月1日)を設けて、社会に広くPRし、われわれ自身も改めて建築士の意識を再確認する日としたい。



「建築士の日(よろず建築相談会)」 の活動について

豊後大野支部 工藤 健治

建築士会の記念行事として6月26日に県下一斉に『よろず相談会』が行われました。豊後大野支部では豊後大野市役所第一会議室で開催し、3名の会員で対応しました。



相談会はコロナ禍という事もあり、消毒などの感染防止対策を施して行いました。近年はオンライン相談会も多いとはいえ、豊後大野市で相談に来られる方にはちょっとハードルが高いように思えます。そこで、新しい試みとして電話でも受付をしたところ電話相談者もありました。PCやスマホなど使わずに気軽にリモート相談が出来る仕組みが身近にあり、意外と使えるものだと感じました。

相談内容は、リフォームと空き家の相談が多かったです。

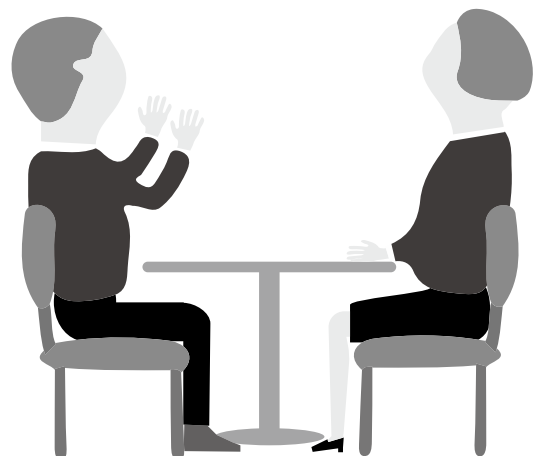
リフォーム相談に関しては、主に水回り空間が生活に支障をきたすようになってきたと言うものが多く、高齢化地域の問題が生活に直結する内容でした。

空き家相談に関しては、相続・登記の問題や家財の処分を含めてなかなか対応が難しく、解決まで

の道のりが長いように思えました。豊後大野市では空き家バンク、大分県ではマッチングチームの空き家対策事業を行っていますが、建築士もそういった制度に関わりを持って行政・自治会・不動産業界などと協力して空き家対策を考えていくと良いと感じました。



相談会の反省点としては、会場が個室という事もあり来場者が伸び悩みました。安易な気持ちで設計事務所や建設会社に相談できる類の内容ではないので、『よろず相談会』では気軽に立ち寄れる雰囲気を出せば良かったかなと思いました。そういった意味では、次回開催時には場所の選定や広報なども含めての前準備をしっかりと行いたいと思います。





「7月1日建築士の日」 作品展示会

臼杵支部 合 澤 浩 司

臼杵支部は、平成29年度から毎年、建築士の日記念事業として上臼杵駅に支部会員による作品パネルを展示しています。

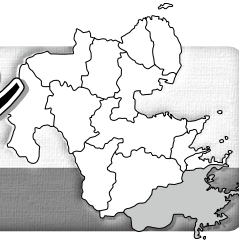
現場の仕事例、建築模型作品、設備のetc、災害時の家の状況、他です。例年より展示作品は少なかったようですが6月25日(土)～7月2日(土)までの展示をしました。利用者の目に止まり、建築士の活動が少しでも理解してもらえればと思います。

(みんなの作品、いつでも待っています)



日豊本線 上臼杵駅





「建築士の日(よろず建築相談会)」 の活動について

佐伯支部 志賀智昭

令和4年6月26日、建築士の日記念事業として県下一斉に「よろず建築相談会」が実施されました。



佐伯支部では休日開催という事もあり、適当な会場を思いつかず（広く一般にアピール出来るのか？と自問しながらも）当初は士会事務局での開催を予定しておりました。途中、県より「耐震キャラバン」の同時開催の打診があったことから再検討した結果「さいき城山桜ホール」へ会場を変更しての開催となりました。



8月に開館2周年を迎えた佐伯市の公共施設ですが、支部では利用したことが無く良い機会となりました。今後も積極的に活用したいと思います。

さて相談日当日、相談者は来てくれるか？心配もありましたが3組の相談があり無事終了！相談内容は割愛させていただきますが、「素人では思いつかない提案等もあり大変参考になりました」との相談者から感想を頂き開催出来て良かったと個人的には思いました。



最後になりますが、休日にも関わらず協力いただいた相談員、設営の応援に駆けつけて頂いた青年部の皆さんに感謝申し上げます。

次年度からも継続して開催していく事業との事ですので、今後は事前の広報に力をいれて準備したいと思います。



新 支 部 長 挨 拶

高田支部 為 成 裕 二



今期より高田支部長を務めさせて頂く事になりました。

諸先輩方がたくさんおられる中、微力ではございますが高田支部の伝統と職業奉仕を通じて会員の皆様と支部活動に取り組んで参りたいと思います。

さて、未だ終息の見えない新型コロナウイルスによって、色々な活動自粛を余儀なくされている状況も、今年で3年が過ぎようとしています。しかし、支部会員のパワーとこれまでの経験を生かして支部活動に取り組んでいきたいと思っています。

また、不慣れな点もあると思いますが会員の皆様のご協力をお願いします。どうぞ宜しくお願い致します。

別府支部 籠 田 真一郎



去る6月18日の別府支部総会におきまして支部長に選任されました。まだまだ実感はありませんが、歴代の支部長を見習って、楽しい支部活動ができるように精一杯頑張りたいと考えています。微力ではありますが、皆さんの協力をいただきながら努めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

近年、別府支部では周辺の支部と連携した公益事業を行ってきています。広域的な連携を図りながら会員が少なく支部単体としての活動ができない地域での活動が行われることで、いろんな意味での相乗効果が図られるのではと思っています。今年度の建築セミナーは別府支部の担当ですが、別府開催にこだわらず、これまで開催されていない他地域での開催を検討しているところです。お楽しみに！

別府支部でも会員数の減少が続いていて、特に若い世代の会員を増やしていくことが課題と考えています。このことは自分が青年部長の頃も言われていた課題ですが、引き続き皆さんと協力しながら検討していけたらと考えています。

新型コロナがなかなか収束しなくて、もやもやすることも多いですが、もうすぐだと信じています。早く以前のようにいろいろと心配せずに活動ができるようになることを祈っています。

佐賀関支部 佐々木 浩



この度、4月の佐賀関支部通常総会で支部長に選任された佐々木浩と申します。

士会に入会してから早37年が過ぎました。すでに年齢も62歳になり、とうとう支部長職が回ってきました。

若いころは体も動いていましたが昨今なかなか思うように動かずバテバテになっていますが、ここでもうひと踏ん張りしたいと思っています。

小さい支部ですが、よき先輩方が作り上げ、まとめあげた支部を引き継ぎ、支部会員の結束を今まで以上に高め活動を行うよう努めてまいりたいと思います。

昨今コロナウイルス感染症も第7波に入り、支部会員だけでなく地域の住民の方の活動も制限されている様な状況ですが、士会員として、積極的に地域に根差した支部活動を模索し、少しでも地域貢献できるように取り組んでいきたいと思っています。

「代々、佐賀関の支部長は大酒飲みでないと務まらない」というジンクスがあるとかないとか聞きますが、歴戦の猛者である先輩方にそのへんの事も教わりながら、無事に任期を全うしたいと考えております。そしてコロナが一日も早く収束し、再び県内の各支部の皆さんと活発に交流できる日を願いつつ頑張りたいと思っています。

若輩者ですが、士会員、地域のために活動に取り組んでまいりたいと思っています。今後とも皆様のご支援ご協力を宜しくお願い致します。

各支部長挨拶



白杵支部 合澤 浩司

この度 白杵支部の支部長に就任しました、合澤浩司と申します。今までに支部役員としては会計、総務、副支部長と勤めてまいりました。そして、とうとう大役がまわってきました。

建築業界は、慢性的に技術者及び作業員の不足、近年の建築資材の高騰 住器等の納品遅延が相次ぎ思うような工事管理が出来ない状況となっています。

このように困難の多い時代ですが、支部会員皆と団結をして3密を避けながら工夫を凝らして士会活動を進めて行きたいと思えます。

出来るだけ若い方々の考えを聞きそれを実現できる環境を作りたいと思えます。若い人たちが、建築に興味を持ち建築士会に入りたいと思えるような支部活動をしていきたいと考えております。会員皆様からのご協力を頂きながらこれから頑張っていきたいと思えます。

どうぞよろしくお願いいたします。



中津支部 山 村 増 治

この度、6月の中津支部通常総会に於いて新支部長に選任されました山村増治と申します。よろしくお願いいたします。

まずは、2年間の活動目標を立て、部会を作り、多くの会員が参画出来る状態にし、そして建築士会が社会の中で求められる存在になるようにしていきたいです。

20年以上前に建築士会に入会し、多くの人と出会い様々な活動をしてきたことは大きな経験となっています。その経験を支部長としての今後の士会活動に活かしたいと思っておりますが、20数年前と現在とでは、建築を取り巻く状況は大きく変わっています。個人的には建築士という職業自体が、10年後にどうなっているのか想像もできません。ただ、現在のままではないことは確かです。

これまでの10年より大きく変化する10年になると思っております。その変化を起こさせない事は出来ませんが、建築士がその変化についていくことは可能です。

建築士会がその手助けになる存在になるためのスタートの時期だと思っており、これからの2年間を務めるつもりです。どうぞ宜しくお願い致します。

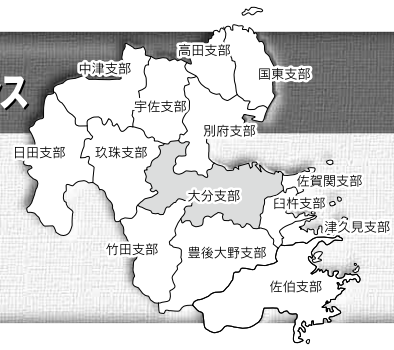


PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★氏名 工藤 賢也
- ★生年 平成7年
- ★勤務先 大分市役所
- ★趣味 ゴルフ、音楽
- ★将来の夢、モットー等

大分市役所土木建築部建築課の工藤と申します。

市役所に勤務して4年目になります。4年目になってもまだまだ学ぶことがたくさんあり、日々先輩方にご指導していただき、勉強しています。

今後も、日々学ぶ姿勢を忘れずに色々な方々から技術や知識を吸収し、市役所職員として大分市のまちづくりのために貢献できるよう努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



工藤 賢也 (大分支部)

- ★氏名 蓑手 望
- ★生年 平成3年生まれ
- ★勤務先 大分市役所
- ★将来の夢、モットー等

大分市役所開発建築指導課の蓑手と申します。大学進学を機に6年間県外で過ごし、初めて外から地元を見ることで大分の魅力を改めて感じ、就職は地元でしたいと思ったことがきっかけで大分市役所に入庁しました。今年で7年目になります。

現在、建築確認申請の審査や検査等の業務を担当しています。自分の未熟さを痛感する毎日ですが、職場をはじめ建築士会の活動を通じて知り合えた方々に多くのことを勉強させてもらっております。

大分市に貢献できるように頑張ります。今後ともよろしくお願致します。



蓑手 望 (大分支部)

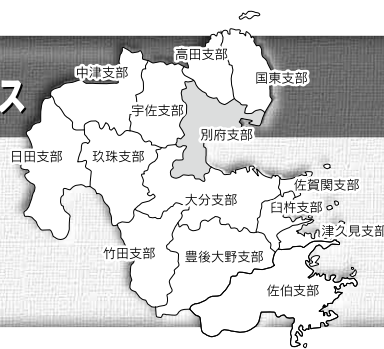


PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★氏名 幸 裕子
- ★生年 昭和59年
- ★勤務先 株式会社幸建設
- ★趣味 フルマラソン挑戦
- ★将来の夢、モットー等

今年度から入会した幸 裕子と申します。結婚出産を経て、昨年やっと建築士の資格を取得することができました。現在は幸建設にて、木造住宅を中心に関わらせて頂いています。

まだまだ勉強中ですが、取得した知識を活かして、おおいたの木の魅力や年々複雑化する住宅事情について、一般のお客様にもわかりやすく伝えていけたらと思っています。また、微力ながら士会の活動にもお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしく願い致します。



幸 裕子 (別府支部)

- ★氏名 重田 凌汰
- ★生年 平成8年
- ★勤務先 別府市役所
- ★趣味 剣道、釣り、ゴルフ、料理、読書、漫画etc
- ★好きな食べ物 パームロール
- ★将来の夢、モットー等

昨年の令和3年度に別府市役所に入庁し、建築士会の存在を知りました。私自身は、まだ知識も浅く未熟ではありますが、皆様から建築においてはもちろんのこと、様々な分野での知識を吸収させて頂くことで、私自身の成長やスキルアップに繋がると思い入会を志願した次第です。

未だ続くコロナ禍で、活動が制限される中ですが、積極的な参加をするつもりです。精一杯尽力していきますので、今後ともよろしく願いいたします。



重田 凌汰 (別府支部)



MY WORK

- ★建物名称 旧蒲江振興局跡地公衆トイレ
- ★建築場所 佐伯市蒲江大字蒲江浦3283番地1
- ★用途 公衆トイレ
- ★床面積 30.78㎡
- ★構造 鉄筋コンクリート造 一部木造
- ★設計者 北口建築設計室
- ★施工者 (有)富松建設
- ★設計趣旨

旧蒲江振興局跡地に建てられた公衆トイレは蒲江の離島である深島や屋形島への交通アクセスである定期船乗り場の目の前に位置する。2つの島はダイビングスポットとしても愛されており、深島はメディアなどで猫の島として有名な島で観光客も増えてきている。

そのため、デザインについては観光客や地元の人、誰もが安心して利用できるよう明るく清潔感がありながら、外部からの視認性・内部のプライバシーの確保に配慮した平面構成とされている。外観は繊細で美しい屋根とするため、軒樋を設けず軒下を2段に織り上げ、先端を薄くすることで緊張感を持たせた庇となっている。



- ★建物名称 豊後大野総合庁舎大規模改修工事
- ★建築場所 大分県豊後大野市
- ★用途 事務所
- ★床面積 2,782㎡
- ★構造 RC造
- ★設計者 (株)高野建設1級建築士事務所
(株)共同システム設計
- ★施工者 森田建設(株)、(株)山村電設工業
- ★設計趣旨

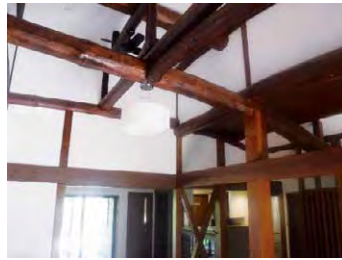
豊後大野総合庁舎大規模改修工事設計業務は、大分県公共施設の長寿命化計画による大規模改修工事で、実施設計では総合庁舎内全体の各課及び各事業所の業務を継続しながら、部分的な改修により配置変更及び移動を行い、最終的に内外全体の改修を完了する改修計画でライフサイクルコストの縮減など効率的な設計を行う業務です。



MY WORK

- ★建物名称 某宅内改修工事
- ★建築場所 大分県臼杵市
- ★用途 専用住宅
- ★床面積 83.65㎡(改修工事範囲)
- ★構造 木造
- ★設計者 現代建設(株)1級建築士事務所
- ★施工者 現代建設株式会社
- ★設計趣旨

先代より暮らしてきた住居を親・子夫婦・孫の3世代で暮らすにあたり、LDKを重点的に改修した。居間・台所・食卓・応接スペースと区切られていた部屋をワンルームの解放的なLDKスペースとした。リビング吹抜け部はシーリングファンによって空気の流れを作る事とし、天井形状と曲りの大きな小屋梁を上手く一体化させることでリビングの吹抜け空間とその他の空間に高さのメリハリをつけることが出来た。



BOOK My Best Book

マイベストブック

『薬屋のひとりごと』

著者：日向夏

玖珠支部 瀧石 雅一

私は読書が好きなのですが、決まって読むジャンルはミステリーだけと云うタイプです。マスカレードホテルの東野圭吾さんと人が死なないミステリー万能鑑定士Qシリーズの松岡圭祐さんと漫画になりますが、名探偵コナンの青山剛昌さんを読んでいます、きっかけは本当にひょんなことから今回紹介する『薬屋のひとりごと』についてです。

物語は架空の中華風帝国を舞台に後宮に勤める官女が王宮内に巻き起こる事件の謎を薬学の専門知識を切り口とした謎解きでファンタジー、一方的なラブコメ小説である。

医師である養父を手伝って薬師として花街で働く少女（主人公）猫猫（まおまお）は人攫いによって後宮に下女として売られてしまう。中国の歴史に疎い自分としては時代背景やシステムの理解に苦しむ所ではありますが、イメージとしては韓国ドラマの『チャングムの誓い』を料理からお医者（薬学・調合）に置き換えてもらうと何となく感じが掴んでもらえるかと思います。

年季が明けるまで目立たぬように勤めるつもりだったが、皇子の衰弱事件の謎を解いてしまったことから、美男子の宦官である壬氏の目に留まり様々な事件の謎解きを手伝われることになるというのが大まかなあらすじである。

クールな主人公猫猫の豊富な知識とあくなき探求心、そして上司に対しても全く遠慮せずに毒を吐き、お互いデコボコな関係に憧れさえ感じます。ただこれまで推理しても当たったことがありません。今のところ全敗です。最新刊は11巻でまだ続行中ですので、私の推理に関する全敗記録も更新中となります。我こそは犯人とトリックを解き明かしてみようという方はぜひ。読むスピードは遅いのでまだ4巻です。楽しみはまだまだ続きそうです。



『パレード』

著者：川上弘美／平凡社

日田支部 櫻木弘三郎

「おすすめの本、ありますか？」仲良くなりかけのひとに聞いてみる。すると、いくつか教えてくれて、わたしは一月とか半年とか、そのうち読んで、感想を伝える「紹介してくれた本よかったです」って。それから本を貸し借りするようになったり……なので、わたしの本棚にはいろんな本があるし、本を手にとれば「あのひと」を思い出す。今回紹介するのは二十年前にアイさんがおすすめしてくれた本。

夏の昼下がりにそうめん、畳でまどろむ。

「昔の話をしてください」とセンセイが言った。

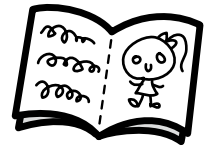
冒頭の12ページ。それだけでいいから読んでほしい。そうめんを湯がいて食べる。寝転ぶ……ただそれだけ。ほんとうに何でもないある夏の午後の風景。でも、センセイとツキコさんの掛け合いが可笑しく、ふたりの穏やかな時間をそっと垣間見るような感じ。ツキコさんの口から少しばかり不思議な昔話が語られるのだけど、それはそれでまた、良い。現実でありそうなお話に非現実をひとつつまみ。それが川上弘美さんのやり方なのだ。

がやがやする音に目が覚めて、がやがやの元はちいさな二匹の天狗。赤いのとうすい赤いの。優しく柔らかく温かい、そして、ちょっとだけ寂しい物語。ことば選び、句読つかい、擬音語が美しく気持ちいい。川上弘美さんの文章が醸す、すん、とした空気感がわたしは好きです。もし、この本がお気に召したなら、本編であるセンセイの鞆もどうぞ。





My Best Book



マイベストブック

『三体 三体Ⅱ 黑暗森林 三体Ⅲ 死神永生』

著者：劉 慈欣

中津支部 日高 雄介

中国初のSF小説三体の三部作は、2006年に中国で発売され、2014年に英訳されるとオバマ前大統領や、Facebookの創始者マーク・ザッカーバーグ氏に大絶賛され世界中で爆発的なヒットを記録しました。

地球を侵略しようとしている異星文明が数百年後に地球を訪れる事が判明した時の地球人類の混乱や、異星人類と交信した地球人はどう動くのか？をととても長いスケールの時間軸で描きます。ブラックホール（事象の地平面）、重力波、先端科学（ナノマテリアル、ニュートリノ等）、量子物理学、光速、宇宙の構造等について興味深い描写も多く楽しみながら読みました。

科学要素だけでなく、登場人物も魅力に溢れる人物が三部作それぞれに多数登場し、キャラクターに感情移入しながら読み進める事が出来ました。

登場人物の行動は、自分の行動一つ一つが未来をどう動かすのか、変えるのかという視点で描かれているのも興味深かったです。

他のどんな作品に似てるだろう？と思うと、強いて言うならSF小説版のスラムダンクといった所でしょうか。スラムダンクを読んだ少年や少女がバスケットプレイヤーを目指すように、三体も読んだ中学生や高校生が天体物理学者や宇宙飛行士を目指したくなるような魅力のある小説だと思います。

私自身も例えば今後「ブラックホールに新しい発見がありました」や「重力波について発表があるようです」のような報道があるなら、今までよりも強く関心を持つと思います。

三部作合計で約2000ページという超大作ですが、読後は長い長い旅路の果てまで連れて来てもらったという心地よい感覚でした。読書の秋に是非三体の旅に行かれてみてはいかがでしょうか。



『頂きはどこにある？』

著者：スペンサー・ジョンソン

宇佐支部 奥田 和彦

私は本屋に行くと、経営に関する本や人生での考え方についての本のあるコーナーに足を運び、面白そうな本を探しています。

その中で、「チーズはどこへ消えた？」という本がとても面白く、事あるごとに読み返していました。そして、同じ著者の「頂きはどこにある？」という本を本屋で見かけた際は、迷わず購入しました。

「人生は山あり谷あり」とよく耳にしますが、以前はその言葉の意味についてさほど深くは考えていませんでした。そうした中で、著者は物語を通じて山の頂上を目指す際の「どうして目指すのか？」「目指した頂上には何があるのか？」という気持ちをわかりやすく伝えてくれています。また、山から谷に人生が下降する点もわかりやすく表現しています。

人間は経験したことのない挑戦に対して、不安を持ちます。そして目指す目標を達成できるまで、不安でたまらないものです。（でも目標も達成した充実感、それによって得られる自信はたまらないものがありますよね。）

しかし、成功を続けていくことで、いつしか怠慢さ・おごりを持つものです。そういった時期に人生は変わらず良くなるのか、それとも悪くなるのか。人生が下り出した時にどう対処すればいいのか。この本を通じて、色々な事を教わりました。

今でも、私が人生の岐路や頂上に上ろうとしているとき、あるいは物事がうまくいかなかった時には、この本に助けられています。





マーボ어의旅先日記 その17

顧問 井上正文

「滋賀県内の国宝建造物を巡って」 (滋賀県分最終回)

この「マーボ어의旅先日記」も会長に就任以来、「建築士おおいた」の紙面調整の意味もあって継続すること17回目を数えます。このたび8年間の会長職を退任するに際して、このシリーズの継続の可否を自分なりに考えてみました。皆さんからの反応が的確に把握できていないものの、「楽しみにしております(たぶんお世辞かと)」という意見を直に伺うこともあり、まだまだ書き残したネタも数多あるし、ということで今後もしばらく継続していくことと致しました。ただ、「もうそろそろ…」の声が出次第、ストップをかけたいとも思っております。それに、今後のネタの順番については考えがあるわけでもないので、ご希望を事務局等にお知らせ頂ければ対応可能かと思います。

今回は滋賀県の国宝巡りの締めくくりとして、書きすすめたいと思います。

滋賀県は種々の歴史の舞台となってきた地域で、京都府や奈良県に続き全国的にも国宝建造物が多いところです。国宝建造物を逐一カウントするのではなく、所在スポットとしてのカウント(わかりにくい表現ですが1つの寺社内には何棟の国宝建造物があっても1カ所とのカウント)でいうと15カ所となります。15カ所を列挙すると以下の通りです。地域名称は私が勝手に割りつけたものであることをお断りしておきます。

- ① ・都久夫須麻神社、・宝巖寺(北部地域)
- ② ○彦根城、・金剛輪寺、・西明寺(東北部地域)
- ③ ○御上神社、○大笹原神社、○苗村神社(東部地域)、
- ④ ・常楽寺、・長寿寺、・善水寺(南東地域)
- ⑤ ○延暦寺、○日吉神社、○園城寺、○石山寺(西南部地域)

15ヶ所を地域ごとに5グループに分類してみました。この中でこれまでに紹介できていない「○印」を付したスポットを今回、紹介していくことにしましょう。ちなみに「・印」を付したスポットは

すでにここで紹介済みですので、ご覧になりたい方は、お手元の既報「建築士おおいた」か、建築士会ホームページにアップされている既報をご覧ください。

★彦根城 全国に5カ所に存在する国宝城郭(松本城、犬山城、姫路城、松江城、彦根城)のひとつです。ゆるキャラ「ひこにゃん」が有名ですが、歴代井伊家の居城で、「桜田門外の変」で暗殺された井伊直弼の居城だったお城です。



《彦根城天守閣》

★御上神社 JR野州駅からバスで10分ほど。鎌倉時代の建立。ご神体は近くの三上山とか。



《御上神社》

★大笹原神社 JR野州駅からバス移動可。全国各地の国宝建造物を巡り歩いています。これほど静かで観光客のいないスポットは初めてでした。国宝建造物が独り占めできました。



《大笹原神社》

★苗村神社 JR近江八幡駅からバスで川守（竜王町）下車。西宮（国宝）と東宮（重要文化財）の間に県道が走っている珍しいパターンです。



《苗村神社西本殿》

これからの4ヶ所は地理的にも京都に近いスポットです。私は滋賀県内15ヶ所を一度に訪れたわけではなく、かなり長い時間の中に訪れています。以下の4ヶ所は、京都の街中の国宝建造物を訪れるタイミングに併せて訪れたケースです。現在は京都市内のホテルはコロナ禍の関係で比較的予約は取りやすいかと思いますがコロナ禍前は京都市街地のホテルを予約するだけでも大変な状況でした。そんな時、京都市内ではなく滋賀県大津市内のホテルは比較的ホテル予約が容易なケースが多くありました。私のお勧めは「東横イン京都琵琶湖大津」です。このホ

テルは京都市内から交通の便も良く「京阪京津線」や「JR東海道線」を使うと比較的容易にホテルまで着けます。「京阪京津線」は馴染のない方も多いかと思いますが、京都地下鉄東西線と繋がっています。地下鉄東西線の「御陵（みささぎ）」で乗り換えれば「京阪京津線」となり上記ホテル前まで容易に来ることができるのです。このホテルを拠点に以下の4ヶ所を巡りました。

★石山寺 ここは学生時代の研修旅行（1972年）でも訪れた記憶があります。「多宝塔」で有名な寺院でもあります。お目当ては国宝の多宝塔でしたがちょうど、大規模改修工事の最中で、多宝塔全体を見ることはできませんでしたが、間近に建物本体を見ることができたのは、ある意味、幸運でした。



《石山寺多宝塔》

★園城寺（三井寺） この境内には多くの国宝建造物が点在していますが、その多くが非公開であり、国宝の金堂のみが全景を見ることができました。



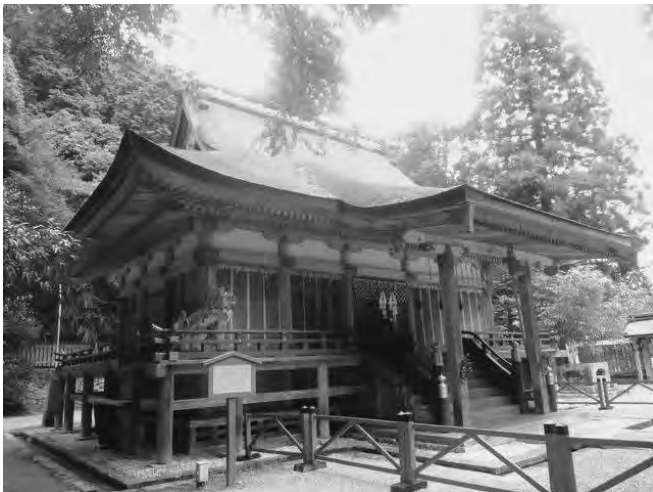
《園城寺金堂》

その他の非公開国宝建造物は、新羅善神堂、光浄院客殿、勸学院客殿の棟です。

★日吉神社 ここ「坂本」は安土桃山時代には物流・交通の拠点として栄えた地域で、明智光秀が本拠地にしてきた地域でもあります。この地域の奥まった比叡山の麓に国宝「日吉神社・東本宮・西本宮」があります。両宮ともほぼ同じ形式でいずれも「日吉造」の代表格として知られ、1595年頃の再建とされています。



《日吉神社西本宮本殿》



《日吉神社西本宮本殿》

★延暦寺根本中堂 日吉神社近くの比叡山ケーブルカーで比叡山を上がるとひんやりと空気を感じます。夏場だと気温3度は涼しくなるようです。ケーブルカー終点駅は登録有形文化財の指定も受けているとか。



《比叡山ケーブルカー駅舎》

ここから徒歩15分ほどで国宝「根本中堂」に着けます。



《比叡山延暦寺根本中堂》

写真にもあるように「撮影禁止」は建物内部の話と勝手に解釈して撮影した建物全景です。最近ライブコンサートなどにも利用されているようです。

事務局だより

■「新型コロナウイルス感染症関連情報」について
連合会のHPに以下の内容が掲載されております。
ご覧ください。

1. 各種講演会に関する情報
2. 建築士試験・建築士制度に関する情報
3. 各団体等への要請
4. 国土交通省の対応
5. 関連情報

■委員会活動報告及び予定

防災委員会

<第1回>

令和4年8月22日(月) コンパルホール
議題

1. 防災委員会の活動内容
2. 大分県知事との「災害発生時における住家の被害認定に関する協定」に基づく対応
3. 災害ボランティアネットワーク協議会（連絡会）への参加
4. 令和4年度被災建築物応急危険度判定実地研修について（中津市）
5. 罹災証明に必要な住家の被害認定調査に係る技術者養成研修会（秋：竹田市を予定）
6. 応急危険度判定先遣隊

<第2回>

令和4年8月27日(土)令和4年度被災建築物応急危険度判定実地研修（中津市）

情報広報委員会(編集部会)

<第1回>

令和4年7月2日(土)
・建築士おおいた秋季号 No.129編集部会開催

■事務局からのお知らせ

案内1

「建築士会全国大会秋田大会」の開催について
令和4年10月14日(金)、秋田市の「あきた芸術劇場ミルハス」にて開催されます。
大会のテーマは、「『建築』で挑戦！郷土のこれか

ら～け、け、けの秋田で まずかだれ」です。
ワクワクする企画が盛沢山のようなようです。

案内2

「監理技術者講習」の開催について

(監理技術者以外の方も受講可能)

大分県建築士会では「毎月第2水曜日」に建築工事に特化した内容で「監理技術者講習」を開催しています。特に、一級建築士、1級建築施工管理技士、1級電気工事施工管理技士、1級管工事施工管理技士等の「建築工事の分野で活躍されている監理技術者」にとりましては、実務に役立つ充実した内容のテキストを使用して講義を行います。CPD6単位が付与されます。

【今後の開催予定】

○「毎月第2水曜日」に開催します。

令和4年	10月12日(水)
	11月9日(水)
	12月14日(水)
令和5年	1月11日(水)
	2月8日(水)
	3月8日(水)

○時 間： 8：50～16：40

[受付8：30分開始]

※8：45～8：50の5分間に講習の運営説明があります。

○会 場：(公社)大分県建築士会会議室

○形 式：DVD講習

○定 員：各回3名程度

○受講料：WEB申込 9,500円/

窓口・郵送申込 10,000円

※受講申し込みは、日本建築士会連合会HPよりお申込ください。

案内3

「既存住宅状況調査技術者講習(更新・新規)」の開催について
改正宅建法の重要事項説明の既存住宅状況調査をするには、この講習会を修了し、登録されることが必要です。

【今後の開催予定】

○新規講習

日 程：令和4年10月5日(水)

○更新講習（年2回開催）

日程①：令和4年11月11日(金)

日程②：令和5年1月26日(木)

※申込方法等詳細は、(公財)日本建築士会連合会のHPをご覧ください。WEBからでも申し込みができますので、そちらもご利用ください。

【オンライン学習（新規講習・更新講習）のご案内】

・インターネット環境の整ったご自宅のパソコンや職場のパソコンにて受講可能です。修了考査の解答までオンラインで完結します。

詳しくは、連合会のホームページをご覧ください。

文化財の登録記念イベント」

- ・第6回 11月下旬 大分市 毛利空桑記念館の地震被害改修工事の研修
- ・第7回 12月 日出町「襟江亭」の保存活動、調査報告書講演会
- ・第8回 令和5年1月 大分市 保存物件修理工事概算見積の研修
- ・第9回 2月 姫島村「古庄邸」、「姫島灯台」、「姫島ITアイランドセンター」

※講師や内容等の詳細については後日案内します。

※第5回は一般向け公開講座で、受講料無料です。

(別途お知らせ致します)

案内4

「増改築相談員研修会」の開催について

日 時：令和4年10月18日(火)

場 所：コンパルホール302会議室

受講料：新規 25,000円 更新 16,000円

※申込受付は、9月末で締め切りました。

来年度も秋頃に開催予定です。

案内5

「ヘリテージマネージャーステップアップ研修」について

すでに28名の受講生で開催されていますが、令和4年度の「ヘリテージマネージャースキルアップ研修」を下記のとおり開催しています。本研修は、7月～翌年2月までの全9回の研修になります。

なお、第2回の杵原八幡宮での研修は、10月以降に延期になりました。

記

- ・第3回 日 時：令和4年9月28日(水)

10時集合～終日

集合場所：豆田まちづくり歴史交流館

現場研修：草野家、広瀬家、行徳家

【第4回以降研修内容（予定）】

- ・第2回 10月以降 杵原八幡宮修復工事（延期）
- ・第4回 10月29日 杵築市 伝建地区内の調査～修復工事の研修
杵築市歴史資料館集合
- ・第5回 11月6日 大分市「関埼灯台登録有形

案内6

「建築物グリーン化促進事業関連会議」等の開催について

大分県からの委託を受け、環境に配慮した建築物の普及を図るため「建築物グリーン化促進事業推進小委員会」で検討を重ねているところです。

つきましては、次の日程で会議、研修等が開催されますので、ご案内いたします。

なお、第1回関係団体ネットワーク会議は、令和4年9月15日(木)に開催されました。

○第1回技術者向け研修

日 時：令和4年10月7日(金) 13:00～

場 所：センチュリーホテル 桜の間

○第2回関係団体ネットワーク会議

日 時：令和4年12月15日(木) 14:00～

場 所：J:COMホルトホール大分
302、303会議室

○第2回技術者向け研修

日 時：令和5年1月20日(金) 13:00～

場 所：J:COMホルトホール大分 大会議室

○県民向けフォーラム

日 時：令和5年2月19日(日) 13:00～

場 所：トキハ会館 ローズの間

案内7

「建築甲子園 大分大会」の開催について

工業高校、高等学校、工業高専（3年生まで）を対象とした、全国設計競技会の大分大会が次の日程で開催されます。今年度の課題は「地域の暮らし これからの地区センター」です。

日 時：令和4年10月22日(土)
場 所：J:COMホルトホール大分 408会議室

報告1

「第1回理事会」について

令和4年5月26日(木)に、コンパルホールにおいて本年度第1回理事会が開催され次の議案について審議されいずれも承認されました。

1. 令和3年度事業報告及び決算報告
 2. 理事・監事候補者選考状況の報告
 3. 入会金・会費規約等の改正
 4. 代表理事・業務執行理事の業務執行状況の報告
-

報告2

「通常総会」について

令和4年6月10日(金)に大分市コンパルホール多目的ホールにおいてコロナ感染対策をとりながらの開催となりました。

次の議案について審議されいずれも承認されました。

1. 令和3年度事業報告及び決算承認
 2. 令和4年度事業計画及び収支予算
 3. 理事・監事の選任
 4. 入会金・会費規約等の改正
 5. 公益目的事業の変更承認
-

報告3

「第2回理事会」について

令和4年6月10日(金)に、コンパルホールにおいて第2回理事会が開催され次の議案について審議されいずれも承認されました。

1. 令和4,5年度代表理事・業務執行理事の選任
 2. 顧問委嘱の承認
 3. 新委員会委員の選任
-

報告4

「永年会員表彰式及び通常総会懇親会」について

令和4年6月10日(金)に大分市の大分センチュリーホテルにおいてコロナ感染対策をとりながら、3年振りの開催となりました。

今年度の永年会員表彰対象者は22名で、出席されま

した9名の方を代表して井上前会長へ、幸会長より表彰状と記念品が贈呈されました。
引続き懇親会が68名の参加により盛大に開催されました。

報告5

「よろず建築相談員養成セミナー及びよろず建築相談会」について

令和4年6月18日(土)に、コンパルホールにおいて「よろず建築相談員養成セミナー」が32名の参加により開催されました。

また、6月26日(日)には、建築士の日記念事業として、県下一斉に「よろず建築相談会」が開催されました。

報告6

「建築士の集い 長崎大会」について

令和4年6月25日(土)に、長崎市で開催されました。研究集会では大分支部青年部の市野瀬康平さんと、野口浩平さんが「団地の中心でつながりを生む」と題して地域実践活動を発表し、3位入賞しました。

報告7

「令和4年度 第31回全国女性建築士連絡協議会(東京)」について

令和4年7月17日(日)、18日(祝・月)に、「これからの快適で健康なすまい」をテーマに、日本建築学会建築会館ホールで、オンライン(Zoom)併用で開催されました。大分県から4名の方が参加しました。

報告8

「第1回ヘリテージマネージャーステップアップ研修」@旧緒方村役場について

令和4年7月30日(土)に、第1回が豊後大野市緒方町で開催されました。

9時に豊後大野市緒方公民館に集合して、開校式、オリエンテーションの後、豊後大野市教育委員会社会教育課の後藤祥氏と、(株)大分住宅研究室の芳山憲祐氏の講義がありました。

その後、会場を旧緒方村役場に移動し、見事に復元した庁舎で「復元改修現地研修」があり、13時頃に現地解散となりました。

報告9

「被災建築物応急危険度判定実地研修」について

令和4年8月27日(土)に中津市今津コミュニティーセンターで13時から開催されました。21名の参加がありました。

高知工科大学総合研究所の金子光広氏を講師に迎え「巨大地震に立ち向かう～大分県北の地震津波防災のための基礎知識と最新動向」と題しまして講演がありました。金子氏は中津データセンターのセンター長も務めており、地域に根差した説明がありました。

引き続き、熊本地震でのコーディネーターの経験のある、後藤憲二氏（本会理事）を講師として実施研修がおこなわれました。

応急危険度判定基準、木造建物調査判定マニュアル等の座学があり、会場を移動し、市営住宅をモデルとした現場実施研修が行われました。マニュアルに基づく調査・判定からデータ入力まで実践的に行われました。講評では、講師の豊富な経験に基づく被災者対応のアドバイス等もあり16時30分に終了しました。

15日(木) 第2回建築物グリーン化促進事業
関係団体ネットワーク会議

令和5年1月

1月～3月 会員増強特別期間
11日(水) 監理技術者講習
20日(金) 第2回建築物グリーン化促進事業
技術者向け研修
26日(木) 既存住宅状況調査技術者講習(更新)

2月

8日(水) 監理技術者講習
19日(日) 大分市空き家相談会
19日(日) 建築物グリーン化促進事業
県民向けフォーラム

3月

8日(水) 監理技術者講習
15日(水) 建築士定期講習会（士会担当分）

会務行事案内

【10月～3月】

10月

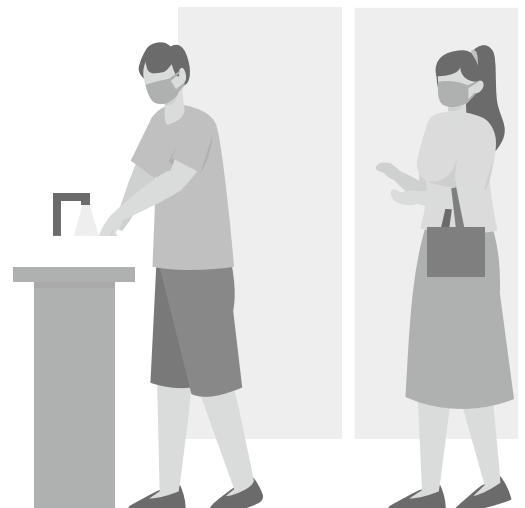
5日(水) 既存住宅状況調査技術者講習(新規)
7日(金) 第1回建築物グリーン化促進事業
技術者向け研修
9日(日) 一級・木造製図試験
12日(水) 監理技術者講習
14日(金) 全国大会 秋田大会
18日(火) 増改築相談員研修会
22日(土) 建築甲子園 大分県大会
23日(日) 大分市空き家相談会

11月

9日(水) 監理技術者講習
11日(金) 既存住宅状況調査技術者講習（更新）

12月

13日(火) 建築士定期講習会（士会担当分）
14日(水) 監理技術者講習



広報委員

委員	長	〈豊後大野〉	高野	幸雄
委員	員	〈高田〉	後藤	憲二
		〈別府〉	山本	健太郎
		〈大分〉	後藤	悟
		〈大分〉	宮崎	隆博
		〈大分〉	竹宮	浩一郎
		〈大分〉	和田	恵利子
		〈佐伯〉	富松	誠
		〈日田〉	佐藤	敏孝
		〈中津〉	日高	雄介

編集委員

担当常務理事	〈豊後大野〉	高野	幸雄	雄二
部会長	〈高田〉	後藤	憲二	健太郎
副部会長	〈中津〉	日高	高橋	大介
部員	〈大分〉	高宮	崎	裕
	〈大分〉	小宮	山	秀輝
	〈別府〉	松井	健	児
	〈臼杵〉	高瀬	幸	伸
	〈津久見〉	長田	孝	治
	〈佐伯〉	井上	雅	順
	〈佐賀関〉	工藤	健	治
	〈豊後大野〉	江上	禎	一
	〈竹田〉	江上	石	一
	〈玖珠〉	瀧	谷	高
	〈日田〉	熊	古	憲
	〈宇佐〉	古	市	司

建築士おおいた

2022.9 No. 129

(非売品)

令和4年9月26日 印刷

令和4年9月26日 発行

編集／発行所

公益社団法人

大分県建築士会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0603	豊後高田市 163 番地 (有為成建設内)	0978-22-1302
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0919	別府市石垣東 1 丁目 9 番 31 号 (株)幸建設内	0977-23-6231
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 富士火災大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼杵	875-0063	臼杵市大字望月 1029-11 藤澤建築設計内	0972-63-7589
津久見	879-2682	津久見市大字網代	090-9076-7189
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-22-5008
豊後大野	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 1922-1 2F 高野建設一級建築士事務所内	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0026	日田市田島本町 4-1 野村一級建築設計事務所内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0444	宇佐市大字石田 13 番地の 11 (株)さとう不動産設計事務所内	0978-25-6766
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～



公益社団法人 大分県建築士会

2022 NO 129